

研究課題名	多職種協働の食道癌摂食嚥下リハビリテーションの取り組み
研究の意義・目的	食道癌の手術を受けられる患者は手術後の合併症を発症するリスクがあります。その一つに嚥下障害が原因で発症する誤嚥性肺炎があり、重篤な場合は抗菌薬投与や高度呼吸器管理などの追加治療が必要となります。これまでも入院前からの指導等予防に取り組んできましたが、誤嚥性肺炎を併発した患者様もありました。そこで新たに嚥下内視鏡検査（以下 VE）を導入した摂食嚥下リハビリテーションに変更しました。当研究の目的は、食道癌術後の患者を対象に VE による嚥下機能評価とその結果に基づいて行う摂食嚥下リハビリテーションが、術後誤嚥性肺炎の低減に有用であるかを明らかにすることです。
研究を行う期間	大阪公立大学医学部附属病院 看護部研究・倫理審査委員会の承認後～2026 年 2 月 14 日まで
研究協力を お願いしたい方（対象者）	2022 年 10 月～2025 年 3 月までの 2 年 6 か月間の症例と 2020 年 4 月から 2022 年 9 月までの 2 年 6 か月間に食道癌（食道胃接合部癌）と診断され、胸腔鏡下食道亜全摘術/ロボット支援下食道亜全摘術および胃管再建術を受けた患者様
協力をお願いしたい内容 と研究に使わせていただく 試料・情報等の項目	電子カルテより以下の内容についてデータ収集を行います。 VE による嚥下機能評価、患者基本情報：年齢、性別、診断名、血液検査結果、画像検査結果（消化管内視鏡、X 線、CT、PET）およびそれに基づく臨床的腫瘍病期診断、手術結果（術式、手術時間、出血量、術後合併症、術後在院日数など）、病理学的組織診断結果（病理学的治療効果を含む）および病理学的腫瘍病期診断
試料・情報の 他機関への 提供	他機関への提供はありません。本研究で得られた結果は、2026 年度に開催されます日本栄養治療学会学術集会に発表予定です。
この研究を行っている共 同研究機関	この研究は、大阪公立大学医学部附属病院 消化器外科外来、15 階東病棟のみで行います。
試料・情報を 管理する責任者	大阪公立大学医学部附属病院 看護部 摂食嚥下障害看護認定看護師 大窪 恵子 データ管理責任者 大阪公立大学大学院医学研究科消化器外科学 田村 達郎
本研究の 利益相反	本研究に関連する開示すべき利益相反関係にある企業はありません
研究に協力を したくない場合	下記の窓口に連絡することで、本研究への拒否をすることができます。辞退の意思を示した場合でも患者様が不利益を受けることはございません。意思表示は、2025 年 10 月まで対応いたします。これ以降はデータを加工し、個人が特定できないように管理するため拒否することができません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 看護部 電話：代表 06-6645-2121 時間：平日 9 時～17 時 対応者：大窪 恵子、田村 達郎（医師） 対応者が不在の際は、後日折り返しにご連絡をさせていただきます。